

季刊
あずみたかのぶ
安住太伸
レポート

H12 新春創刊号

皆様、お元気で過ごして
しょうか？

いよいよ、新しい千年紀の
幕開けとなりました。何かと
慌ただしい毎日かとは存じま
すが、お体、どうかご自愛く
ださい。

さて、昨年、四月二十六日、
皆様の本当に温かいご支援の
下、旭川市議会議員としての
立場をお与え頂いてから、早
いもので、既に八ヶ月余りが
経過いたしました。この間、
中島義光先生、関根正次先生

のご指導の下、地域の皆様と
ご支援頂いております全ての
市民の皆様のご期待にお応え
申し上げるべく、全力で頑張
つてまいりました。

無我夢中で走るあまりに、
これまで、皆様方にごうした
形での報告が遅れておりま
したこと、大変、申し訳なく
思っております。今後は、で
きれば年に四回、春夏秋冬の

「**季刊 安住太伸 レポート**」
あずみたかのぶ

という形で、私の活動内容
議会を感じたこと、皆様関心
をお持ちの大きな行政課題、
市政におけるトピックスにつ
いての解説など、幅広く取り
上げ、**皆様と市政の間のパイ**

ブ役として、種々お伝え申し
上げてまいりたいと考えてお
ります。

記念すべき？第一号の今回
は、これまでの議会活動をざ
つと振り返り、三つの大きな
本会議での活動と、それにか
らめて、議員歴半年を経ても
所感、新たな決意について、
ご報告申し上げたく思います。

さて、当選後初の本会議、
第二回定例会におきましては、
「**二一世紀の旭川 まちづ
くりのあるべき姿**」といった
テーマで、早速、一般質問に
立たせて頂きました。かなり
の日数と時間を調査分析にあ
て、準備万端足りなく？初登
壇いたしました。相当緊張し

ておりましたが、傍聴された方からは、「態度、内容ともに、若々しくも非常に立派で大変良かった」というとても嬉しいお言葉を頂く一方、「少し早口で聞き取りにくかった」というご指摘も頂きました。この点、心して今後の課題とさせていただきます。

なお、要旨のみではありませんが、内容を同封の別紙に掲載いたしましたので、そちらもご覧頂ければと思います。また、決算の認定議会であり、第三回定例会では、所属いたしております経済文教常任委員会の所管事項につきまして、同分科会で、直接決算の認定に関し、質問に立

ちました。

取り上げたのは、二二世紀の旭川を支える産業の内のかつかに、今後、間違いなく数えられていくでありましよう。観光と農業に関する、行政のあり方については、あります内容については、同じく要旨を別紙にてご紹介させていただきます。

この、分科会(ないし委員会)での質問は、本会議での質問とは違って、「一問一答」形式になっております。つまり、回数と時間の制限されている本会議の場とはまた違う緊迫したムードで、かつ聞いていても分かりやすいものです。お時間がございましたら



一般質問に登壇

～第四回定例会にて～

是非、一度、委員会にも傍聴にいらしてください。

(入口にてお名前、住所などを記入して頂くだけでどなたでも傍聴できます)

また、先月半ばに閉会いたしました第四回定例会では、「**本市経済の再生に向けた現状と課題**」と題しまして、引続き精一杯の調査分析に基づき、一般質問に立ちました。現在、本市には、来年四月にスタートいたします介護保険制度の問題をはじめ、中核市への移行に向けた準備、他**大きな行政課題が文字通り山積**しております。ですが、何はさておいても、**皆様方の生活の、全ての基盤となる経済の活性化、再生**こそが、ある意味で最も重要なこと、急務であると常々考えておりましたので、この問題を取り上げた次第です。

皆様、新聞、あるいは雑誌紙上にて既にご案内の通り、第三回および、今、第四回定例会は、エコ・スポーツパーク(仮称)事業に関する一連の行政執行上のルール無視に加え、それらの問題に対する議会の対応について、大きく揺れた会期でありました。確かにこの問題は、市民の皆様からの信頼と負託の下に、**貴重な税金をお預りしている市政執行機関としては、絶対に起こしてはいけない問題**であり、今後二度とこういうことが起こることのない様、**問題発生の原因となった部分の改善に全力を尽くし、一日も早く、皆様との間の信頼**

関係を回復すべきという点、私も全く同感であります。この点、微力ながらもしっかりと、今後とも、行政のチエックに努めて参る所存です。経験と知識の浅い私ではございますが、**新しい目で、若い力で、今、自分が本当にしなければいけないことを考え、この問題を含めて、山積する行政諸課題の解決推進にあたって参ります。**市民の皆様、**日々の生活実感の改善こそが、私の本当の仕事だと常に念頭において、議員としての活動に全力を注いで参ることを、この場で、改めてお誓い申し上げます。**この八ヶ月間で、短いなり

に、一人の市民、あるいは一人の若い父親、そして一人の夫として、自分が感じたままの議会、行政への思い・意見(僭越ですが...)については、いずれまた、自分なりの提案とセツトで」お伝えすると同時に、これまで同様、議会活動においても実践して参ります。

初心を忘れることなく、一生懸命に頑張っておりますので、どうか信じて待っていてください。

若く、決して前例やしがらみにとらわれることのない議員として、皆様方から、私に對しお寄せ頂いている信頼とご期待に、必ずや、本当の意

味で応えて参りたいと、この皆様へのご報告をしたためながら今、決意を新たにしております。

以上末筆ではございますが、皆様方の、今年一年のご健勝と、今後益々のご発展を心よりご祈念申し上げます、

「季刊 あずみたかのぶ 安住太伸 レポート」

の、結びの言葉に代えさせて頂きます。ありがとうございました。

安住太伸



市民の皆様と、祭りに、「まちづくり」に汗を流す
～平成11年旭川夏まつりにて～

自宅 旭川市東条二丁目一九
電話 二七五七〇(ファックス共)

(別紙)

《第二回定例会一般質問》

「**二二世紀の旭川 まちづくりのあるべき姿**」要旨

(質問通告は「二二世紀のまちづくり」)

近年は、これまでも増して、都市間の競争が激しくなってきたとおりです。別の言い方をしますと、旭川も、札幌も、あるいは東京も、福岡も、さらには外国の都市であつても、それぞれに自分達のまちがどれだけ素晴らしいかを互いに激しく競い合い、少しでも多くの、夢を持つ人や企業を惹きつけ、都市としての活力を維持していることと必死になつていくということなのです。そんな中、「これぞ旭川！」

と市民の皆様、お一人お一人が確固たる自信をお持ち頂ける、他都市に比べてごだわりと独自性のある「まちづくり」を進めていかなければ、若者だけではなく、人も、企業も、皆、旭川から、より魅力ある他都市へと出て行つてしまひ、旭川はただ衰退するだけになつてしまいかねません。

ですが、政策を実行するにもお金がかかります。

さらに、社会、経済環境の大きな変化の中で現在は、

皆様の行政に対する要望
需要はどんどん増え、お金が
ますます必要になる一方で、

税収は減少、国や道から

の補助金なども減少し、施策を進めるためのお金がどんどん減少し、

という、相反する方向性を上手にバランスさせながら「まちづくり」を進めなければいけないという、非常に難しい状況になつてきております。

ただでさえ、市民の皆様からお預りしている貴重な税金ですから、一銭たりとも無駄にはできません。

そこで現在、本市において、財政運営は厳しい厳しいとよく言われる点、どの程度厳しく、一体どういう状況にあるのかを具体的に質すと同時に、「限られた財源を、皆様方に

も納得感のある形で市政に活かしていく」ための補助的な手法として、企業会計で広く一般的に用いられている

バランスシートの導入

特別会計などを含めた

連結会計制度への移行

事務事業評価システム

の採用

などを提言させて頂きました。

また、限られた財源ですの
で、総花的にあれもこれもとい
うことではなく、旭川が本
来持っている良さを再発見し、
そこにさらに磨きをかけると
いう形で効率的、重点的に財
源の配分ないし施策の展開を
進めていかなければならない、

という趣旨の指摘をさせて頂
きました。

そして、そうした考えに従
い、本市の持つ大きな特性

長い冬と日本トップクラスの
雪質を活かした「まちづくり」

具体的には、

ウィンタースポーツを

核のひとつに据えた「ま

ちづくり」

を、かなり細かく、また色々
なアイデア、手法も合わせ
て紹介しながら、教育的効果
の側面、国際交流深化の側面
等々への言及も含めて提言さ
せて頂きました。

この点ウィンタースポーツ
のメッカとしての「まちづく
り」を推進していくに際して、

その中核行事となるであろう
バーサースキー大会に、停滞
感が色濃く漂っているという
問題と、二〇〇〇年第二〇回
記念大会運営に向けての今後
の取り組みなどについて質問
をいたしました。

《第三回定例会 決算審査

分科会》

「観光と農業に関する、行

政のあり方」要旨

観光行政については、

観光客誘致促進に向け
激化する都市間競争に打
ち勝つには、「住民自ら」

本市の独自性を再発見できる仕掛けが先ず必要。

観光資源の充実とは、

その独自性に磨きをかけ、来訪者にとつての「非日常性を演出」することで
は？

その際、財源をより効率的・重点的に投下できるよう、各種施策とその効果の「定量的把握・分析」を行うべき。

観光資源の充実は「まちづくりそのものの別な側面」と捉え直し、住民参加の仕掛けの中で議論を深めることで、先ずは「観光マスタープラン」の作成を。

その下に、具体的な施策の展開には、全庁的な取り組みによる「総合力」であたるべき。

といった趣旨で、いくつかの質問、提言をさせて頂きました。

農業行政については、

今後、世界の食糧需給動向は、爆発的な人口増の傾向の中、明らかに逼迫する見通し。

一方で、安全で美味しい食物に対する需要は、我が国でも最近とみに高まりつつあり、農産物生産基地としての本道、あ

るいは本市が果たすべき役割はこれから飛躍的に増大。

そうした状況において、もともと、地理的な要因にも助けられ、内地産に比べて低農薬で生産されてきており、かつまた食味も優れている農産物の生産に、「クリーン農業」事業を通じてより力を入れることで、元来、本市基幹産業のひとつである農業のより一層の振興・発展を期するべき。

一連の施策を通じ、本市を「医療休養基地構想」計画にいう、人も企業も、恵まれた自然環境との調

和の中で、美しく健やかに生きることのできる、

「**輝きのまち**」として世界に向けて発信していくという考え方が必要。

といった趣旨で、いくつかの質問、提言をさせて頂きました。

《第四回定例会一般質問》

「**本市経済の再生に向けた現状と課題**」要旨

国や道の破綻した財政状況を見る限り、これまで同様の積極的な財政出動を先々期待することは、極めて困難な状

況になってきております。

つまり、本市経済が自律的な回復軌道に未だ乗っておらず、依然として非常に厳しい景況の中で、早ければ再来年にも、国や道による財政出動の下支えを失ってしまう恐れのある事態に、我々は今、直面しております。

今、我々が急ぎ取り組まなければならぬことは、本市経済の先行きに対する明確なビジョンと、それを実現するための何らかの方策を、先ずもって広く市民の皆様にお知らせすること。そしてそれを早急に実行に移すことによつて、市民の皆様の、生活の全ての基盤となる経済の安定化

に一定の目処をつけ、将来に對する不安を払拭し、消費や投資への意欲を再び持つていただくことであり、その結果としての景気の自律的な回復と、今後の持続的な成長であります。

具体的には、第一に、既存の企業、中でも相当に苦しい事態に追い込まれていると推測され得る、地域の、中小企業の皆様の経営体質強化支援を、そのニーズに合わせてこれまで以上に充実させていくことです。

第二には、そうしつつも、なお、構造改革の波に持ちこたえられない方が、多数出てくる事態を想定し、廃業した

方が直ちに、別の事業を開業することが可能となるような環境の整備と、制度の創設を急ぐことです。

より具体的に、これからはいわゆる起業支援を徹底して行うことで、仮に廃業率が今まで以上に上昇しても、それを補って余りある開業率の上昇を実現することこそが、根本的な問題の解決手段として、極めて重要であるという認識に立って、施策の立案・展開を図ることです。

第三には、地域振興に資する人材の育成を、今まで以上に積極的に行っていくことです。「まちづくり」にとつて、その根幹を成すのは全て

人であり、「人づくりこそがまちづくり」という認識に立った施策の展開を図っていくことこそ、ある意味では最も大切な課題であるということです。

以上の様な観点から、地元企業、四大学と一高専、そして行政と、産・学・官の三者協力の下、本年実施されました起業化講座「ベンチャーカレッジ」に対する評価と、同講座の今後のあり方について加えて、市内唯一の市立高校として、これまでも大きな責任を果たしてきた北都商高の存置問題に関して、いくつかの質問、提言をさせて頂きました。

中で、前段の、既存企業の経営体質強化支援と、起業支援、および新規事業の育成支援については、世界の潮流、あるいは我が国の状況など様々なデータを踏まえた上で、情報通信関連産業が重要な位置付けとなってくることが指摘させて頂きました。

また、後段の、北都商高の存置問題については、例えば、地元で様々な分野の実務に携わっていらっしゃる有識者の方々であるとか、あるいは、文化面でも、職人の世界においてでも、また、企業経営者としてであつても、何がしか一芸に秀で、その分野では、世界クラスの実力を持った著

(別紙)

名な方を講師としてお招きするなど、多くの新しい試みを積極的に取り入れていかれることを強く要望させて頂きました。

なぜならば、山本有三氏の小説「米百俵」の話を持ち出すまでもなく、財政的に苦しいときにこそ、輝かしい未来のために、今を耐えて、教育に投資すべきというのが、古今東西を問わず、社会発展の道理だと考えるからです。

最後に、蛇足ではございますが、以上の質問には、行政視察の成果を積極的に取り入れた、多くの提言を盛り込んでおりますことを、ここに、付け加えさせて頂きます。

また、さほど多くの機会を頂いている訳ではございませんが、我々議員は、皆様方の負託に応えるためにこそ、お預りしている血税を基に、視察を含めた、様々な活動を行わせて頂いているものと理解いたしております。

以上、極めて概括的に申し上げて参りました。
皆様方の貴重なご意見、ご感想を心待ちにいたしております。

ありがとうございました。
(なお、要旨を端的にお伝えするため、部分的に議会における実際の表現とは異なる言い回しを用いている箇所があること、ご了承ください)

その他 安住太伸の

主な議会関連活動

議会運営委員会委員として、議会運営のとりまとめにあたってあります。
介護保険調査特別委員会委員として、介護保険制度の円滑な導入に向け調査・提言などを行っております。
青少年問題協議会委員として、青少年の育成、保護などに関する施策の検討・提言などを行っております。
他にも、各種審査会等の委員を兼任。精力的に活動を行っております。